

雪かきで地域は育つ (『結』の精神で地域を元気にしよう・・・)

二藤部 久三 ※1

1、発表の主旨

日本三雪（越後高田：新潟県上越市、飛騨高山：岐阜県高山市、出羽尾花沢）の地である本市は、古くから豪雪地帯である。盆地特有の気候で一日の寒暖の差が大きく、冬季の降雪量が多く、平野部でも積雪は2mを超える。理由としては、最上川を吹き抜ける北西の季節風が奥羽山脈にぶつかり、その西側で多く降雪するためである。

本市の主な基幹産業である農業では、昭和40年頃になると「田植え」や「稲刈り」の繁忙期には、ご近所同士助け合う（結：ゆいの精神）が芽生え農作業を協働で行うようになりました。又、冬期間は、神社や公民館等の屋根雪下ろしも地域協働作業として行ってきました。ところが、平成時代に入ると全国の社会問題にもなっている少子高齢化の波は本市にも影響が出てきました。特に、冬期間の雪処理（雪かき、雪下ろし）は、高齢者世帯への負担増になり生活困難者が増加傾向にあります。

尾花沢市除雪ボランティアセンターは、平成24年10月に尾花沢市社会福祉協議会（本市社協という）を事務局として設立しました。活動方針は、「結の精神」を基本とし、共助・協働・交流を目的とした除雪活動の、企画・運営することである。組織としては、指導部（雪かきの指導や安全管理）、広報部（活動の記録や広報）、業務部（企画、ニーズ調査や調整）の3部門とし、年2回の調整会議（世話人25名）を行い実施してきました。さらに、指導者としては、尾花沢市建設業協会・尾花沢市シルバー人材センターや宮沢地区雪プロジェクトより社会貢献活動として参加していただき、雪かきの担い手育成にも努力をいただいています。

本篇では、6ヶ年の除雪ボランティア活動の成果について報告します。

2、活動内容と成果

2.1 活動の流れ

- ① 初回調整会議（11月下旬、日程確認、協力体制）
- ② ニーズ調査（12月、民生委員と区長へ依頼）
- ③ 要援護者世帯の事前現地調査（活動日の前日）
- ④ 除雪ボランティア活動（1月中旬～2月末）
- ⑤ 最終調整会議（3月中旬、活動報告、課題提起）

2.2 主な活動（数字は6ヶ年概算数）

- ① 尾花沢中学校2年生（1月第3水曜日頃、90名程度、要援護者世帯14か所、指導者：尾花沢市建設業協会、宮沢地区雪プロジェクト）

- ② 宮城県岩沼市社会福祉協議会（1月下旬土曜日 岩沼市民50名程度、地域住民45名、要援護者世帯15か所、指導者：地域住民）写真1
- ③ 雪国交流【宮城県宮城野区福住町町内会と尾花沢市鶴子地区 地域間の災害相互協力協定活動】（2月上旬頃 1泊2日 20名程度、地域住民15名、要援護者世帯5ヶ所、指導者：地域住民）
- ④ 「雪ちよす部」【東北学院大学他災害ボランティアセンター 尾花沢市大石田町広域連携推進協議会】（2月上旬頃2泊3日 東北学院大学、関東学院大学中央大学他45名程度、要援護者世帯10か所、指導者：尾花沢市シルバー人材センター、地域住民）
- ⑤ 山形大学民泊除雪ボランティア活動（2月上旬頃、1泊2日 大学生9名程度、要援護者世帯2ヶ所と地域の共同作業協力、指導者：地域住民、宮沢雪プロジェクト）



写真1：平成29年1月下旬 岩沼市民と福原地区住民

- ⑥ 豪雪時の市内企業による除雪ボランティア（尾花沢市に豪雪対策本部が設置されると、市内企業による活動を実施するシステムが構築されている。）過去6か年で、4回以上の協力有。主な企業は、建設業、製造業、サービス業である。さらに、尾花沢市豪雪対策本部主体の除雪活動（130人規模、友好都市である岩沼市、大崎市、加美町の行政職員）が、2回行われた。ニーズは、本市社協で調査した。

※1 尾花沢市除雪ボランティアセンター広報部会長、越後雪かき道場師範代、大石田町スノーバスターズ顧問

2.3 活動の成果

① 要援護者世帯と民生委員の感想

Q. ボランティアが入ることに抵抗は？

A. 抵抗はありません。生きているうちに、何回でもきてほしい。

Q. 中学生のボランティアについて思うことは？

A. 毎年来てくれて、ありがたいと思う。中には顔見知りになった子供もいて、声を掛け合ったりしている。

Q. 県外からのボランティアについて思うことは？

A. 雪が珍しいみたいで、終わってから雪遊びしていた。見ていてこっちも楽しくなった。除雪機を持ってきてくれた人がいてすごく助かった。写真2

Q. 近所のみなさんからの反応はどうか？(苦情等)

A. 特にはない。一人暮らしなのをみんな解っているし、眼が不自由なのもわかっていてくれるから、理解はある。民生委員さんや区長さんが助けてくれるので安心して暮らしていける。

Q. 今まで、中学生とボランティアを通してかかわってきてどうですか？

A. 近所の子供が来てくれたことがあって、親や祖父母のことで話ができてつながっていると実感した。これからは子供たちと関わっていききたい。話しができて嬉しい。



写真2：平成30年2月上旬 東北学院大学他大学生、おばあちゃんと民生委員

② 除雪ボランティア参加者の感想

平成27年2月9日～10日東北学院大学外災害ボランティアセンター除雪作業代表の総括(初参加)

反省点等様々な課題はあったが、まずは大きなトラブルもなく活動を終えることが出来た。今回の活動で、現地の方々と繋がりを持つことが出来た(交流)。又それと同時に、現地の地域性を実感することが出来(地域特性・自然)、継続的に豪雪地帯へ除雪ボランティア活動

を行っていくべきであると考えた(恒久的な活動)。今年の活動は叩き台のような形だったが、来年度以降は今年以上に大きな活動を企画(SNOW INNOVATION)できたらと思う。

③ 地域住民の意見

・最初は、よそものを地域に入れることには抵抗があったが、要援護者世帯が多く増えている今日は、未経験者でもかなりの効果がありよかった。(区長)

・地域のニーズ把握は、民生委員と一緒に情報共有しているが、除雪ボランティアが行われることで、さらに強固な情報共有になった。(常日頃の安否確認)

・当初は地域役員のみでの協力であったが、今年の冬は除雪ボランティア参加者と地域の協力者が同数(それぞれ51名参加)となり、共助・協働・交流の仕組みが確立した。(絆の芽生え)写真3

・除雪ボランティア活動の時間が短く、もっと沢山行いたい。(2時間程度の作業時間しか確保出来ない為)

・地域の要援護者世帯では、除雪活動を毎年楽しみにしていて前日から「おでん」や「漬物」の準備をし歓迎している高齢者もいる。(おもてなしの心)

(事務局としては、大根づけやお茶程度とし、過大な接待はダメと指導しているが、目を閉じるしかない)



写真3 平成30年1月下旬 豪雪の中で共助除雪をする岩沼市民と福原地区住民(夏季の交流にも繋がる)

④ 除雪活動時のボランティア保険加入状況

中学生は、授業(総合学習)として活動するために不要。大学生は、災害ボランティア活動も行っているため、年度初めにボランティア保険に加入している。

一般参加者は、活動前日までに全国社会福祉協議会(受付けは、尾花沢市社会福祉協議会)に個人負担で申し込む。(一日行事保険で金額は低料金です)

地域の参加者は、公民館事業と併用するので、年度初めに地域の全世帯が加入する。

指導者及びスタッフは、それぞれの所属先で、加入している。（業務として参加の時も有り）

よって、除雪ボランティア活動に参加する全ての人々は保険の加入を必須としている。

過去6ヶ年の除雪ボランティア活動参加者数（人）

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
中学生	74	117	110	7
大学生A	9	9	9	9
大学生B	10	18	41	99
岩沼市	35	86	46	55
福住町	10	10	11	13
一般参加	20	50	36	28
地元企業	6	2	18	0
地域住民	38	37	106	168
小 計	202	329	379	379
指導者	56	48	42	57
スタッフ	98	116	95	109
合 計	356	493	516	545
件 数	35	40	46	44

	H28年度	H29年度	合 計	比 率%
中学生	89	169	566	19
大学生A	9	9	54	2
大学生B	50	31	251	9
岩沼市	49	48	319	11
福住町	26	25	95	3
一般参加	14	143	291	10
地元企業	0	8	34	1
地域住民	93	86	528	18
小 計	330	519	2,138	(73)
指導者	22	21	246	8
スタッフ	51	60	529	19
合 計	403	600	2,913	100
件 数	31	67	263	

【考 察】

過去6ヶ年の除雪ボランティアの参加者は、2,138人（73%）となり、指導者及びスタッフ（27%）を含めると、除雪活動世帯数263件、延べ2,913人が参加しました。

参加者の内訳は、市内居住者（中学生、地元企業、地域住民）が28%で、市外からの協力者（大学生、岩沼市、福住町、一般参加）は35%になる。又、その年の降雪量によって差異がありますが、6ヶ年の平均は、除雪ボランティア（356人）と指導者・スタッフ（129人）になり、延べ485人が毎年除雪ボランティア活動を行っています。

2・4 運営費及びボランティア活動者の確保

当センターは、本市社協に事務局を置く任意団体であり、スタッフは個人の社会貢献活動として参画している。運営費は、山形県雪対策総合交付金の一部から、尾花沢市より補助を受け活動しています。除雪道具（スコップ、スノーダンプ、ヘルメット、長靴等）、安全旗（おぼね雪ほり隊、雪ちょす部、尾花沢中：心の交流活動中等）や消耗品の経費に運用しています。

現地への移動手段としては、尾花沢市の福祉バスやスクールバスの提供（運転手付きで無料）を得て実施しています。

関東や関西から来県いただくボランティアの方々には、平成24年度から山形県で開始した「除雪志隊」にボランティア登録し、交通費や宿泊費等の支援を受けて参加していただきました。（平成29年度は未利用）

岩沼市民は、参加者の個人負担ありで大型バス1台を確保し移動しています。このバスは、現地への移動手段としても活躍しています。

3. 平成30年度の除雪活動計画と健康雪かき体操

3. 1 活動計画

当センターは、除雪活動毎の閉講式において、翌年の活動予定日時を決めています。毎年参加する人への意欲を高める手段です。3月頃に行う最終会議では、翌年の除雪活動日を議題として提案し協議しています。平成30年3月の調整会議で計画した予定です。

- ☆福原中学校・・・平成30年12月下旬
- ☆雪かき塾（尾中2年生）・・・平成31年1月23日（水）
- ☆地域共助による除雪ボランティア（岩沼市社協）・・・平成31年1月26日（土）
- ☆雪国交流活動（福住町と鶴子地区）・平成31年2月上旬
- ☆尾花沢市大石田町連携事業（東北学院大学他）・・・平成31年2月6日～8日
- ☆企業ボランティア（日立キャピタル（株）65名）平成31年2月1日～2日
- ☆市野々地区（山形大学）・・・平成31年1月下旬
- ☆地元企業ボランティア・・・降雪状況により実施を判断
- ☆豪雪時における除雪活動（豪雪対策本部）・・・豪雪状況により実施を判断

3. 2 実技指導と「健康雪かき体操」

当センターでは、雪かき初心者のために座学と実技指導を必ず行い除雪活動をしています。又、参加回数が多い方は指導者より直接現地で実技指導を受けその後除雪活動をしています。（安全管理の徹底）写真4

開講式で必ず行うのが「健康雪かき体操」です。写真5



写真5：健康雪かき体操（平成17年度制作 青森県）
（平成30年1月に、尾花沢中学校雪かき塾）

この体操は、青森県教育委員会が「運動」を中心とした科学的・効果的な体力づくり対策による健康寿命の延伸を目指し、平成17年度に発表したのが「健康雪かき体操」です。内容は、ストレッチと筋肉トレーニング中心体操で、12パターンの動きから構成されています。スコップを使う動きやスノーダンプで雪を押し出すなど「雪かき」の動作を取り入れており、高齢者や子供を含む全ての方に気軽に取り組んでいただける体操になっています。（青森県HPより引用）

当センターでは、平成24年度からは必ず開講式の中で参加者全員で、準備運動として活用させていただきました。この作品は、健康や運動に対する市民の意識を高める効果があり、さらに、運動負荷量が低く迎えられている。誰でも、いつでも、どこでも楽しく出来る体操で、多くの高齢者や子供たちも参加し運動できるものである。

今年の冬も、平成27年から参加している、みちのく仙台ORI☆姫隊は、尾花沢市鶴子地区で行われた除雪ボランティア活動に参加しました。その時に、村田代表と協議し「健康雪かき体操 ORI☆姫隊」バージョンの制作を依頼しました。青森県で平成17年度に制作された作品は、ダンス及び音楽ともレベルの高い品質であり、「内容の変更なし：（音源、体操の降り、タイトル）」で進めることで基本合意しました。その後、青森県の管理担当者へ電話連絡、9月下旬にはダンス及び音楽無償利用承諾をいただいております。収録出演諸経費は、ORI☆姫隊復興支援プロジェクトが、社会貢献の一環として災害ボランティア活動として協力する事で一致した。

4. 除雪ボランティアセンターの課題

- (1) 各担当部門（指導部、広報部、業務部）の強化（地域リーダーの育成強化、専門知識の共有）
- (2) 市内地域住民の除雪ボランティアへの参加（おぼね雪ほり隊登録の拡大）
- (3) 除雪作業の実施判断基準の明確化
- (4) 受け入れ側の体制強化（地域の協力拡大）
- (5) ニーズ（要援護者世帯）調査のマニュアル化

5. まとめ

除雪ボランティア活動の基本方針は、マニュアル作成より、最初は活動が優先すべきである。（行動開始）

地震や水害が多い日本では、東日本大震災以降からボランティアに対する国民の協力は増加傾向にあります。但し、被災した地域の災害ボランティアセンターを運営する市町村社会福祉協議会では、スタッフの人数も少なく運営するには厳しい環境にあります。よって、豪雪地帯の尾花沢では、毎年必ず除雪ボラセンで災害ボラセンの現地訓練を行うことができます。

厳しく、暗いイメージが強い豪雪地帯の冬へ、明るくなる除雪、楽しくなる除雪、感謝される除雪、そして担い手育成の確保を目指す“SNOW INNOVATION”になり得る効果は期待大である。

最後に、特別豪雪地帯の厳しい尾花沢で、除雪ボランティア活動していただいた皆さんに心から感謝申し上げ、これからも活動を継続しますのでご協力をお願いします。



写真4：平成28年1月 初心者への座学と実技指導（山形大学生）